

酒々井町

郷土研究会会報

第95号

平成12年1月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

古文書を学習しよう

「中川村の古文書より」

むかしのおきて

青木朝次

一札

拙寺檀家当村忠右衛門妹多満儀今年  
貴院檀家貴村新右衛門伴吉之丞妻  
致縁組候処右多満義者無扱扱合有之  
候而多満何方江致縁組候共巻生涯之  
内者拙寺致禮那ニ候答ニ兼而相極置  
候此旨新右衛門并伴吉之丞共ニ納得  
無相違候乍然多満出生有之節者男子  
女子共ニ貴寺旦那ニ可被成候右改旁  
為後日書付相渡申候 仍而如件  
と書かれていますが、これは大佐倉  
村の宝珠院ならび同村の忠右衛門か  
ら中川村の西蔵院ならび同村の新右  
衛門にあてた書き付けです。内容は、  
大佐倉村の多満さんが中川村の吉之  
丞さんのもとに輿入れし、めでたく

式をあげたが、嫁の多満さんは大佐  
倉村の宝珠院の檀信徒であり、結婚  
しても一生涯宝珠院の檀家である約  
束である。この事は新右衛門さんと  
その伴吉之丞さんも承知の事である  
ので結婚を認める事にした。

迎春

平成十二年元旦

しかし多満さんの生んだ子は男女と  
も貴寺西蔵院の檀家として差し支え  
ない。右後日の為書き付けを渡すも  
のである。と記されている。  
昔、戸籍はお寺で管理していた。  
戸籍と言わず人別帳と言ふ言葉で呼  
ばれ、悪事をした者等は此の人別帳  
から外され無宿人となり人権が認め  
られなくなる。

此の縁組の場合は嫁ぐ為に転出す  
るのであるが、その度に檀信徒を離  
脱する事を承知していたのでは檀家  
の数が減り収入減となる為、一生涯  
離脱を認めることはできないという  
もので、このような窮屈な時代を経  
て現代の自由が存在する。

一札

拙寺檀家当村忠右衛門妹多満儀今年  
貴院檀家貴村新右衛門伴吉之丞妻  
致縁組候処右多満義者無扱扱合有之  
候而多満何方江致縁組候共巻生涯之  
内者拙寺致禮那ニ候答ニ兼而相極置  
候此旨新右衛門并伴吉之丞共ニ納得  
無相違候乍然多満出生有之節者男子  
女子共ニ貴寺旦那ニ可被成候右改旁  
為後日書付相渡申候 仍而如件

寛政六癸丑年

二月

中川村

西蔵院

新右衛門

大佐倉村

宝珠院

忠右衛門

年頭に寄せて

郷土研究会会長 青木朝次

新年明けましておめでとうござい  
ます。

一九九九年も終わり二〇〇〇年の  
記念すべき年を迎えることができ万  
感胸にこみあげてきます。

この輝かしい初春を迎えられまし  
た皆様におかれましては、健やかに  
幸せいっばいのこととお慶び申し上  
げます。

昨年の町制施行百十周年記念の絵  
馬展は会員一丸となり寝食を忘れて  
頑張りました。一人一人の力は小さ  
くても協力し合い、一大事業を成し  
遂げることは素晴らしいことと新た  
な感動が湧いてきます。毛利元就の  
「三本の矢」の逸話を思いおこし協  
力し合うことが如何に大切かを改め  
て知らされました。

郷土研究会も創立二十二年を経過  
し、一年四回発行する会報も百号が  
間近かになりました。郷土研究会の  
歴史は会報につづられ後世まで引き  
継がれることでしょう。今後とも皆  
様方の御協力のもと好かれる郷土研

究会になるようにつとめる覚悟です。  
御意見や御希望等お聞かせいただき  
ますようお願い致します。昨今の不  
況風を吹き飛ばすよう、皆様と共に  
ある楽しく和やかな会として活動し  
たいものです。

孟子のことばに「道は近きにある」  
とありますが、身近なところから酒  
々井の歴史を大切に、わが町酒々井  
・よき町酒々井に発展しますよう、  
郷土研として新しい勉強もしていけ  
ればと願っております。どうか皆様  
のお力添えがいただけますようお願  
い申し上げ、年頭にあたり皆様方  
ご健勝と御多幸を祈念し、新年の挨拶  
とさせていただきます。

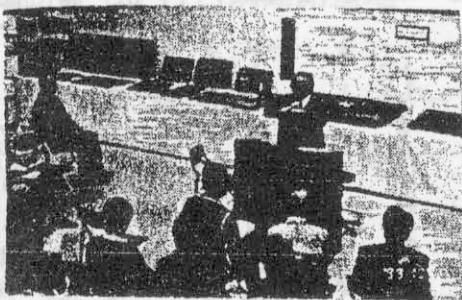
百十周年記念事業

「酒々井の絵馬展」を

終えて

公民館長 福田和弘

初めて絵馬というものを意識した  
のは一年程前、郷土研究会の皆様が  
開催された第三十三回町民文化祭で  
の「絵馬展」でした。  
それまで絵馬というとお正月や入



学試験の時期に神社に奉納される行  
事、つまり風物詩程度の認識しかあ  
りませんでした。

しかし当時の会田会長さんに絵馬  
の持つ意味や素晴らしさを教えてい  
ただき、また酒々井におけるその数  
の多さや庶民の暮らしの一端を垣間  
見る手段として貴重な資料であるこ  
となどを学ばせていただき、た。  
そしてこのような素晴らしい絵馬が  
酒々井にはまだまだたくさんあること  
また、貴重な文化財として皆様に関  
心を持っていただければなどの願  
いを込めて、酒々井町制施行百十周年  
記念事業の中心行事の一つとして、  
絵馬展の開催をお願いしたわけです。

今回、このような  
素晴らしい機会を与  
えていただいた郷土  
研の皆様のご努力と  
ご尽力に心から感謝  
申し上げます。郷土研究  
会の今後のますます  
のご発展と会員皆様  
のご健勝をお祈りい  
たしまして、お礼の  
言葉にかえさせてい  
ただきます。



中野坂上方面

匿名

九月二十八日火曜日中野坂上方面へ郷土研究会初参加で同行させて頂きました。

雨の為に一週間延期となった当日は晴天でいまだ残暑の厳しい中、京成八幡で都営新宿線に乗り換えて、最初の目的地中野坂上駅近くの宝仙寺に向かいました。宝仙寺では、代々宝仙寺の檀家総代をされていた堀江家の墓地や中野町役場跡碑、白塚、五輪塔などを見学し古い歴史を感じました。

次に成願寺へ参りました。御本尊は釈迦如来とか、観音堂の百観音など御仏のお姿に心洗われ、成願寺の伝説の中野長者の墓・宝篋印塔など興味深いものがありました。

次に新宿へ行き、カリヨンの時計を横に見て安田ビル四十二階の東郷青児美術館を見ました。丁度美術館大賞受賞の山本貞展が催されておりました。東郷青児の幻想的な女性画を見てステキな気分になり、それにもまして有名なゴッホの「ひまわり」を目の前にして感動でいっぱいでした。新宿で昼食をとりこれで解散、一日のスケジュールは終わりで空気が味わいながら別れてから東京の

旭市方面を訪ねて

中山雅夫

定員三十三名を越えて三十八名の参加者。気温は低い雲一つ無い絶好の旅日和。

真言宗智山派・福聚山海宝寺の本堂裏手にある新四国八十八ヶ所を廻る。平坦地に適当な間隔を置いて石像が立っている。御本尊の聖観世音菩薩は、徳川五代將軍綱吉公の生母桂昌院殿一位尼公の念持仏で、千瀉八万石の豊かな繁栄と人々の心の安らぎを与える仏である。

次の東漸寺は、かの荒武者で名高い木曾義仲から数えて十九代後裔、源義昌が下総の網戸城に入城後、木曾氏代々の菩提所として建立された寺である。彼は天正十年、天目山に勝頼を滅ぼした功績により十萬石になるが、秀吉が小田原城攻めをした際、息子の義利を出陣させた為、疑惑をかけられ、何時の世も誠に厳しきものがある。治世僅か五年だが、彼ほど住民に慕われた人も少ない。野々口隆正がこの旧跡を訪ね、「信濃よ

ヨッピングを楽しんで心地好く充実した思いで帰りに着きました。

「旭」が旭市の発祥と言われている。次は長禅寺は珍しくも愛染明王を本尊とし、伊藤住職の御好意により、大きな守護神を真下から仰ぐことができたのは幸運だった。古来より縁結びの仏として広く敬われている。もう一つ忘れてはならないのは、鈴木市右衛門による正面の雲龍彫刻と嶋村俊正の欄間彫刻の獅子と牡丹だ。何れも板の厚さより盛り上がろう。非凡な技は感嘆の他ない。庭内に目立たない碑があるが、アフリカより苗を移し、今日の落花生を日本に力にさせた金谷総蔵の碑である。彼の努力が報われるの道は長く苦しいものだ。開拓者の道は長く苦しい

郷土研究会日誌

月	日	内容	人員
10.	5	野草観祭	16名
	27	日帰り入浴	9
11.	15	編集会議	6
	17	旭市方面	38
	24	研修会議	14
	25	編集会議	5
	26	運営委員会	19
	29	御成街道	33
12.	4	史談会	18
	8	駒込方面	22
	14	編集会議	6
	21	編集会議	6
	26	発送	25

絵馬展を見学して

山内智香子

十月十七日町制施行百十周年記念事業絵馬展に友人をお誘いして参加いたしました。

先ず楽しい絵ときの語り部で知られる足利市の小倉喜兵衛先生の講話が一時間程あり、絵馬の歴史と信仰につながる重みのある内容に深い感動を受けました。

奈良時代初期より絵馬奉納の習慣が有ったことをお聞きしました。

酒々井町の神社仏閣に大切に保存されている大小二百八十九点ある中で会場に展示された百二十点余りを興味深く絵ときをして頂いたこと、本当に良い勉強をいたしました。

古来より絵馬が大切な信仰として暮らしの中に存在し、形を変えつつ今日まで続いており、二十一世紀に継承していく事を念じずにはいられませんが、一点一点に感心しうなづいて人の心の尊さと日々懸命に生活していく人間の力・努力に感動いたしました。

実行委員の皆様のお骨折りに厚く御礼申し上げます。

「絵馬展に

酒々井の秋を悟りけり」

野草観察会に参加して

斉藤節子

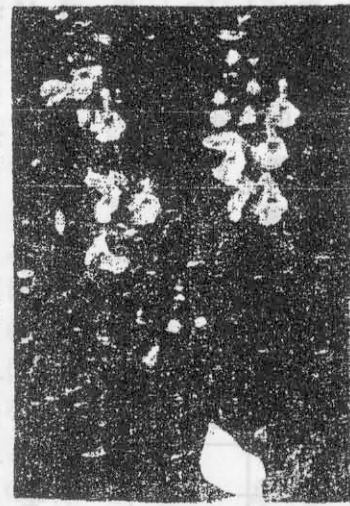
主人が他の講座に出席した折、郷土研究会の役員の方々から入会のお誘いを受け、今回の野草観察会に参加させていただきました。

十月五日(月)前日までの残暑が嘘の様な少し肌寒く感じる曇りの日総勢十七名が、五台の車に分乗し中央公民館前を九時四十分出発、間もなく伊藤天神原の現地に到着しました。日頃見過ごしていた野草を静かな環境の中で観察しながら久し振りに安らぎのひとときを持つことが出来たのです。

変化に富む我が町の自然の中で野草にもすべて名前があり由来があることも知り驚きました。

野草のはかなさも同時に思い、いろいろ発見することがありました。野草は生き物で自然の風情を全身に表しています。野草の命ははかないものですが四季おりおり、様々な表情を持っており、可憐な花、寂しさやはかなさを思わせる野草は自然をこく身近に感じさせるものではないでしようか。自分の目で自然を見つめることの大切さを感じ自分の足で野山を歩き、いつどこになんの

花が咲くかを日頃から心にとめておきたいものです。  
松かさすすき、黄花秋桐、ひよどり草等に深まりゆく秋の気配を感じつつ亀井先生の熱心なお話で耳をかたむけた一日でした。



黄花秋桐

あとがき

二〇〇〇年の曙の光を浴びて平成十二年がスタートします。

百年前輝かしい二十世紀を迎えた明治三十三年の人々はこのような気持ちであつただらうか。

開国、明治維新、海外から怒濤の如く押し寄せる文明の波に揉まれ、世界中を相手に戦争をして勝ち、そして大負けに負けたのを背負わされた戦後を戦争を知らない若者が引き継いだ二十世紀後半。。。武器こそ持たぬが経済と福祉の競争を切り開き、明るい見通しをつけて平成の若者に世代を渡してあげたいと希う新年です。



# 見学

## 案内

### 名勝探訪

#### 江ノ島方面

一月二十三日(日)  
雨天代替二月 六日(日)

記念すべき二〇〇〇年一月ホリデーパスを使って鎌倉方面へ行きます。鎌倉から、家の軒と軒を通る江の電で江ノ島へ向かいます、ここでは日蓮上人が捕らえられて首を斬られそうになった時、雷がはしり上人は死罪を免れたという奇跡の場所に建立された寺、龍口寺をお参りします。広々とした相模湾を眺めながら、江ノ島大橋を渡り江ノ島へ、島内では動く階段エスカーに乗って、江ノ島神社や植物園などをゆっくり見学しながら一日を過ごしたいと思えます。鎌倉駅には午後三時頃に到着、そこで自由解散となりますので時間の許す方は、駅の付近を散策するのも楽しいですね。

### 野草の会

#### 七草粥を食べる会

二月十八日(金)

奈良時代から伝わっているこの風習は、正月のご馳走続きの胃を休めるために、合理的な行事だといわれています。遠い昔を思いながら皆様お誘い合せてお出で下さい。

### 日帰り見学会

#### 横浜方面

三月二十一日(火)

春の息吹を覚え花便りに心弾む候、金沢区の北条実時ゆかりの称名寺を訪ねます。文永四年(一二六七)開山した古刹で往時の面影はありませぬが、阿字池を中心とする庭園は寢殿造の貴重なものといわれています。称名寺境内にある金沢文庫は建治元年(一二七五)頃、北条実時の創建になる書庫で北条氏滅亡後称名寺の管理下になりましたが、昭和五年に神奈川県が鉄筋コンクリートの現在の書庫を建設し、多くの国宝・重要文化財が收藏されています。本牧にもどり生糸貿易で財をなした原富太郎(三溪翁)の本邸と庭園であった三溪園に足を運びます。三つの溪谷にまたがる広大な自然を生かした大庭園の中には重要文化財建造物が九ヶ所に存在し、四季折々彩る草花も散策の楽しみです。

次に山下公園岸壁に繋がれているかつての北米航路の定期便、戦後復員船として活躍した水川丸で昼食、見学します。帰路、夢や希望をのみ込み大きく変化しつづけるお台場のフジテレビに立ち寄りませう。生の放送番組に出合えるといいですね。

### 古文書学習会

今年から古文書学習会を始めることになりました。近世(江戸時代)の歴史を考える最重要なものはないといっても古文書であるといわれています。近世の古文書に親しみ、江戸時代の人々の暮らしや社会の仕組みを理解し、その時代を生き抜いたさまざまな人間の切なる願いや祈り、楽しみや苦しみ等当時の人々が残した文書の筆の走り、語り口が私達に何かを訴えていることが解るようになるばいいと思います。郷土研究会員として古文書が少しも倍増することでしょう。講師不在ですが以前学習した古文書をひもとき御一緒に勉強したいと思えます。どうか皆様お誘いあわせお参り下さいませ。お待ちしております。

会長 青木朝次

郷土研行事案内 平成12年1月~3月

史談会	1月 休み	2月 12日(土) 13:30 公民館 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋健一先生	3月 11日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会		2月 15日(火) 13:30 社会福祉協議会 「中川村の古文書より」	3月 21日(火) 13:30 社会福祉協議会 「中川村の古文書より」
名勝探訪	<p>1月23日(日)『江ノ島方面初詣で』 JR酒々井駅 7:00集合 雨天代替 2月6日(日) 費用 ホリデーパス 2040円 拝観料、江の電代等 少々かかります 場合によりコース変更あり 弁当、飲み物持参ください</p> <p>行程</p> <p>JR酒々井——<del>龍口寺</del>——JR鎌倉——<del>江ノ島駅</del>——江ノ島駅——<del>JR鎌倉</del>——JR鎌倉</p> <p>▲——龍口寺——▲——江ノ島駅——<del>JR鎌倉</del>——JR鎌倉</p> <p>——JR酒々井</p>		
野草の会	<p>2月18日(金)『七草粥を食べる会』 会場 中央公民館講堂 受付 11:30 会費 700円 会食開始 12:00 定員 70名 申込受付 1月30日(日) 12:30 (公民館ロビーにて)</p> <p>手伝い出来る方は 9:00迄に調理室においで下さい。</p>		
日帰り 見学会	<p>3月29日(水)『横浜方面』 中央公民館 6:50集合 会費 6500円 定員 45名 17:30着(予定) 申込受付 1月30日(日) 12:30~ 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前までに 青木朝次宅へ</p> <p>行程</p> <p>公民館——湾岸・幕張PA——大黒PA——ベイブリッジ——並木IC——称名寺——三溪園——氷川丸(食事・見学)——新山下IC——ベイブリッジ——お台場(フジテレビ)——有明——佐倉IC——公民館</p>		
第24回 総会	<p>1月30日(日) 中央公民館講堂 開会13:30 受付 12:30から(公民館ロビー) 会費 年 1000円 議題 ・平成11年度事業報告及び決算の承認について ・平成12年度事業計画案及び予算案について ・その他 (同時に七草粥と日帰り見学会の申し込みを受け付けいたします) 総会終了後町制施行110周年記念絵馬展のビデオを観賞していただきます</p>		